

## GDP 成長率 No.1 の市、天津

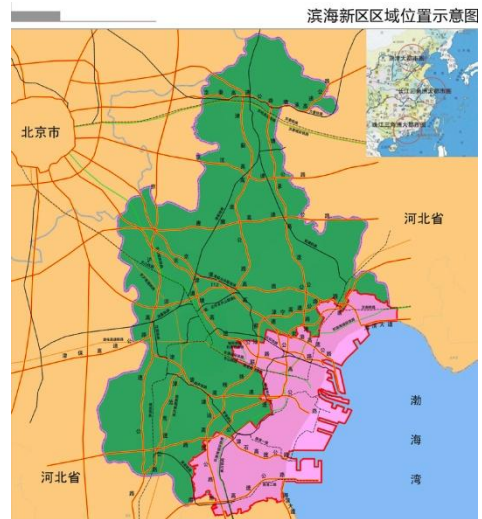
2012.3.21

香港 花木

2011 年の中国各 31 省市中、天津市は実質成長率 16.4%と重慶市と並んで成長率 No.1 となった。ちなみに 2010 年も 17.4%と第二位の重慶（17.1%）を抑えて No.1 を獲得している。ただし、天津市の地域総生産額（1.1 兆元）の半分以上に当たる約 0.6 兆元は「濱海新区」（地図中赤部）の経済活動に伴うもので、まさに「濱海新区」が天津の経済成長のエンジンとなり全体のけん引役を果たしていると言えるだろう。

「濱海新区」は天津港・天津空港を含む面積 2300 平方キロと東京 23 区の約 4 倍にも及ぶ広大な土地に広がっている。その中には以前ご紹介したエコシティがあるほか、トヨタ（天津一汽豊田）をはじめとする日系企業、サムソン、モトローラ等の電子企業や、エアバスをはじめとする欧州の企業も多く立地している。北京に近く高度人材が豊富なことや港湾アクセスの良さがこうした発展を後押ししているものと思われる。

3 月に天津のいくつかの場所を訪問したので、備忘的になるものの、写真を交えてその横顔を紹介したい。



滨海新区位于天津东部沿海，陆域面积2270平方公里，与天津市中心城区相距40公里，距北京170公里，距唐山110公里，距黄骅港100公里，处于环渤海地区的中心位置。

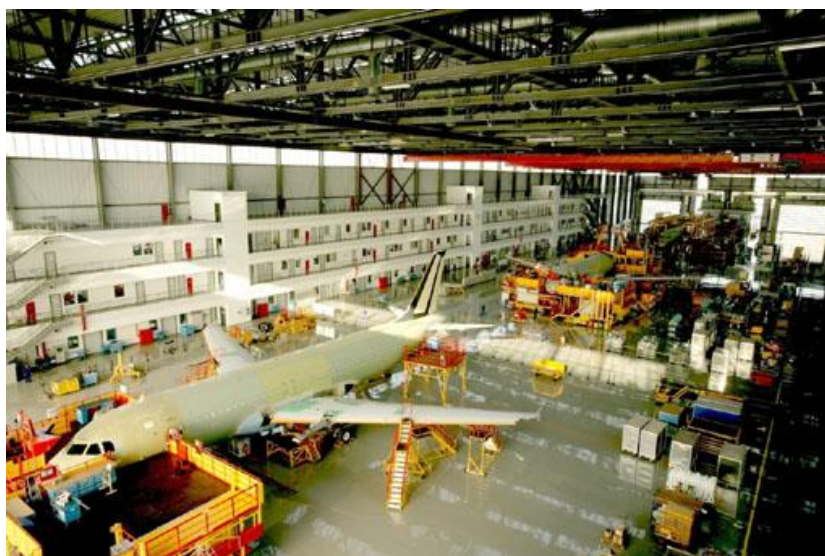
### (1) 空港隣接型の空港経済区

濱海新区の中には、空港に隣接した経済区もある。中でも天津空港の滑走路に隣接した絶好の位置に立地しているのがエアバスの A320 製造工場である。この工場は 2008 年に生産を開始し、その後、同社がアジアで受注した A320 機は基本的にここで製造されている。



左の写真を見れば一目瞭然のように、エアバスの工場（赤枠）は天津空港の滑走路に工場から直接出られるようになっており、試験飛行及び出荷が大変便利になっている。中国は共産党幹部が欧州に行く都度、何機ものエアバスの発注をしているが、そうして発注したエアバスはここ天津で作られることになるため、

中国にとっても一定の付加価値の分け前にあずかることが可能なのだ。工場内の撮影は当然ながら許可されなかったが、一度に6機の組み立てが可能で、毎月約4機のペースでA320が製造されており、現在抱えているだけの注文をこなすだけでも2015年までかかるという繁盛ぶりである。また、当然ながら関連産業や航空機リースを扱う金融会社も周辺に集積し、最近はこうした集積を受けて高級ホテルやショッピングセンター等のサービス産業も集積しはじめている。なお、中国は現在、2014年の初飛行を目指して国産旅客機C919の開発を進めているとされるが、こちらの製造拠点は上海となっている。



←新聞報道写真より



↑ 広大な天津エアバス工場。正門ゲートより。

## (2) 風力発電工場

天津は意外にも風力発電産業の集積度が高い。世界最大の風力発電機製造会社 Vestas (本社：デンマーク) は 2006 年から天津に工場を設けており、そこではナセル (軸部)、羽根、主塔及び制御ソフトの全てを製造する能力を持っている。また、世界の風力発電機の羽根の約 3 分の 1 を製造しているという羽根専門のおアウトソーシングメーカーである LM 社 (本社：デンマーク) も 2001 年から中国最初の工場を天津に開設している。

風力発電機の羽根は短いものでも 40m と B737 旅客機ほどの長さがあるため、港湾に近い天津は物流面で有利ということもあるが、必ずしもそれだけでなく、どうやらここ天津は欧州系企業にとって比較的なじみがあり居心地がよい土地であるようだ。中国は 2009 年

に新設設備容量で世界最大の風力発電国となり、翌 2010 年には累計設置容量でも世界最大となる等市場が急拡大しており、華鋭や金風等の国内メーカーの急速な追い上げがあるものの、Vestas のような企業にとっては極めて重要な市場となっており、今後も大型の海上風力発電を中心に市場の拡大が見込まれている。コスト面での追い上げはあるものの、羽根の形状等に高度なノウハウを活かして、当初導入コストは高くても生涯発電能力ではもとがとれる製品を生みだして生き残りを図ることを方針にしているようである。



↑ 天津 Vestas のナセル工場（左）と工場ヤードに置かれた巨大な羽根（右）  
※：いずれも工場門外から撮影。

### （3）武清開発区

天津には濱海新区以外にももう一つ発展速度が速い地域がある。それが天津市の北京市寄り位置する武清開発区である。あえて言えば濱海新区は大規模な製造業が集積しているのに対し、こちら武清は部品や中堅・中小企業が比較的多いという特徴があるようだ。



天津市は自転車産業も有名（当然世界一）だが、その自転車産業があるのも武清地区だということから、日本で言えば東大阪か堺一帯のようなイメージで間違いないだろう。その地理的位置は左図のとおりで、まさに北京と天津の中間にあり、5本の高速道路・13か所の高速道路入口があると

いう交通の便のよさと、あわせて地下水の豊富さを PR ポイントにしているようであった。

こうしたこともあって、武清では最近「貸し工場」を建設、比較的投資規模の小さい企業に向けた貸出を始めたという。工場の賃料は1日1㎡当たり1元（月30元）と割安で、工場は奇抜なデザインのようなが省エネ・低炭素に気をくばった設計としているということであった。興味のある方がいらっしゃれば、北京空港からも遠くないのでぜひ一度ご覧になってはいかがでしょうか？



↑ 建設されたばかりの貸し工場。(天津市武清開発区)

(以上)